
メタルハート

フェニックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メタルハート

【Nコード】

N4167Z

【作者名】

フェニックス

【あらすじ】

それは人間の精神の世界と学園を行き交う少年たち、カオス予備軍の物語だった。人間の精神を浄化するカオス。人間の精神を巢食うソーサラー。南条 列。通称、烈火のシャクヤ。パトリック・レドガー。通称、鋼のトウゴウ。祐希 みずほ。通称、水虎のキヨウカ。彼等の行く先にカオス軍があるのかソーサラー軍があるのか誰も知らない。

メタルハート

南条 列、パトリック・レドガーは学園の駐車場へ走った。停めてある白銀のバイク。それが彼等を人間の精神に誘うマシンだった。エンジンをかける列。

「エドワードは？」「後から合流するって。行こうぜ」ヘルメットを被ると今日の依頼が掲示される。

「烈火のシャクヤ様ですね。今回の依頼は昨日の被害者の保護です。お間違いありませんね」「アア。任せときなよ。やってやるぜ！」「こちらもだ。ソウルゲート。オープン」

ドルドルドルッ……………キシューン

前方に赤い魔方陣が表れ、彼等はワープする。

「頼んだぞ。イーグル。彼等の監視を。何かあったら連絡しろ」ピーキーー

「さて。マシンの調整はこんなもんな。後は実戦か。ハー……………
…この瞬間いつも胃が痛くなる。みっともないよ。胃薬が無いと出
れないなんて。……………エドワード・スカイ。忍者 カゲツ。行きま
す」漆黒のバイクに股がり、エドワードが発射する。

「遅いぞ。エドワード」「アノ……………僕はこっちでは忍者 カゲ
ツって名前なんですが……………」「オオ。そうだったか？まあ気楽に
やろうぜ。カゲツ。俺は烈火のシャクヤ。で、パトリックが……………
」「……………鋼のトウゴウ。分析とサーチ担当だ。カゲツ。この学園に
来て初めての実戦訓練だな。無理はするな」「わかってますよ。チ
ームプレーですもんね。皆で無事に帰る。そうでしょ？」

「現場に着いたな。トウゴウ。俺達の他に誰がいるか？」「イイヤ。
荒れているが反応がない。まあ昨日の後始末だ。とりあえず、巡回
するか。シャクヤは左から迂回してくれ。俺とカゲツは右から廻る
」「オツケー。退屈な任務だな。マンガでも持ってきてくりや良かった
な」「シャクヤ。任務中だ。巡回が終わったら結界を張るぞ」「
教科書どうりですね。わかりました」

三人は巡回した。

「ン？なんだろう。この欠片。後で解析しよう。たぶん昨日のソーサラーの欠片だろうけど」「トウゴウさん。昨日のソーサラーってどんな感じだったんですか？」「下級クラスだ。まあ、訓練生に任せる仕事だからそんなもんさ。いざとなれば介入出来るようにな」「そうですね。町を滅ぼした奴等なんていないですよ」「まあ、そっちは後で調べとくよ。一人でやるより効率が良いだろう。シャクヤにも伝えとく。今は任務優先だ。そのうち見つかるだろうよ。例のソーサラー軍も」「ウン。一歩づつですよ。閉ざされた扉も叩き続けているうちは負けていない。そうでしょ？」「そうだな。スパイダーやシルバーオックスも同じ感覚なんだろうな」「ザーザー……………浸入信号確認！ポイント西に30。北に5。速度加速中……………」
「来たか。行くぞ！カゲツ」「西に……………北に……………」
「カゲツ？どうした？」「コッ……………怖いんです。僕は」「大丈夫だ。お前は一人じゃない。俺達がバックアップする。ついてこい」「カゲツは震えていた。

パルスのバランスが崩れている。まだ早かったか。こいつを連れてくるには。早くシャクヤと合流したいがカゲツは置いて行けない。サア、パトリック。どっちを取る。……………シャクヤすまん。少し遅くなる。任務も大切だが、こいつを守らなきゃ。いずれ、はみ出し者になる。カオス軍から追放された奴がソーサラー軍になった例もあるし。……………少しだ。少し遅くなる。

苦肉の作だった。

「トウゴウ！敵が見えた！スコープで確認した！距離5000。今、映像を送る」「すまん。シャクヤ。カゲツのパルスが乱れている」「カゲツ！戦えない奴は立ち去れ！俺達を危険にさらすな！」「やめろ！シャクヤ！俺達はチームなんだ！」「チツ……………みずほは？水虎のキョウカは？」「まだ連絡が無い。携帯も電源を切っているらしい」

「ピーーキイー。ピーーキイー……………キケン、キケン。センセイ、キケン」

「なんだと！ロストパルスだと？学園長。コレは？」「すぐに援軍を！先生。貴方も行けるか？」「カゲツを保護に行きます！イーグル。位置を送れ」

「なんで………なんで僕を狙って来るんだよ。いつも、いつも」
「落ち着け！カゲツ。飲み込まれるぞ！この世界に」「トウゴウ！
まだか？距離3000。総数不明！ソーサラー軍。来るぞ！」「…
…シャクヤ。手を貸そう」「………お前は………シルバーオ
ックス。俺の双子の兄貴。南条 ハヤト………」「聞いたのか
？その話を。なら話しは早い。俺と共闘しろ。シャクヤ」「………
…待ってよ。兄貴。なんで………」「話してる暇は無いぞ。若造。
俺と共闘しなくては間に合わない。そうだろ？」「………トウゴ
ウ。今………兄貴と一緒になんだ。シルバーオックスと。これより
共闘作戦に変更する。間に合わないんだ。しょうがないんだ。行く
よ！俺は！」「すまん。シャクヤ。後で合流する」「行くぜ！シル
バーオックス！烈火、二刀流剣！」「銀狼、連装」シャクヤは二刀
流を構え、シルバーオックスはガトリングを構えた。「マシガン
か。遠距離は任せたよ。行くぞ！ソーサラー！」「シャクヤ。生き
て帰れ。良いな？」「ワカッテラー！ウォーッ！」「二刀流が赤く輝
く。「烈火、爆炎！」シャクヤは空を飛び、バツサ、バツサと切り
刻む。まるで踊り子の様に、リズムカルに敵をなぎ倒す。「目標を
捕らえた。レディー！ファイアー！」ズガガガガッ。シャクヤの
合間を縫う様にマシガンが火を放つ。「シャクヤ！この手投弾を
切れ！」シルバーオックスは1ダース程の手投弾を投げる。弾を足
場に切り刻むシャクヤ。ズダダダダーン。

辺りを爆風が包む。爆風の中から更なる増援が現れる。

「始まったか。急がなくては。シャクヤ。無事でいてくれ」「トウ

ゴウ。待たせたな。カゲツを預かるう。サア、行け！」「……………貴方は？」「アカデミック・カイザー。お前の先生だ。話しは後だ。フルスピードで向かえ。援軍の手配に時間が掛かる。早く行け！」「アカデミック・カイザー。学園皇帝。ありがとうございます。先生」トウゴウは軽く挨拶を済ませ、シャクヤの元に走った。

頼んだぞ。お前たち。帰ったら、豚まんとゴマ団子を山盛りご馳走しよう。すまん。カゲツを送ったらすぐに向かう。待っている。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4167z/>

メタルハート

2011年12月14日12時52分発行